



# 会報 叫び

荒瀬ダムの撤去を求める会

会長 本田 進

前坂本村議会議員と町民有志の会

会長 木村 征男

大変遅きに失しましたが、荒瀬ダムの撤去を求める“地元の叫び”を発したいと思い、会報の発行を思い立ちました。個人的に最も多忙な年末にしかけての作業ですから、新聞スクラップ中心で、とても納得のいく広報はできませんが、荒瀬ダムNOの思いが少しでも届けばと思います、お付き合いください。

名については、先の役員会で、12月の集会の名称を「荒瀬ダムの撤去を求める坂本の叫び住民大会」と名づけたからです。しかし、長たらしいので変更もあり得ます。(編集・印刷 山本隆英)

## 木本さんの訴え要旨

球磨川漁協は、総代会で「荒瀬ダムの存続に反対しダム撤去を求める決議」をし、一貫してダム撤去を求める運動を堅持しています。

荒瀬ダムは直接的に球磨川か流域・河口・八代海の生態系に大きな被害を与え続け、漁業資源を壊滅的に減少させています。ダム撤去は球磨川・八代海の再生により発電利益以上の経済効果をもたらします。

蒲島熊本県知事は「一方的に荒瀬ダムは存続する」としましたが、これは水利権規則に違反し、河川法が許さない行為です。

河川は公共用物であり、みんなが他に迷惑をかけない限り自由に使用されるよう常に管理するのが河川管理の原則です。国といえども、自分の土地を売買するように勝手に処分することは許されません。水利権の申請は「事前に関係者の同意」を得なければなりません。これまで同意のない水利権申請は一件もありません。県知事も企業局も間違いのないようにすべきです。わたしたちは同意しません。

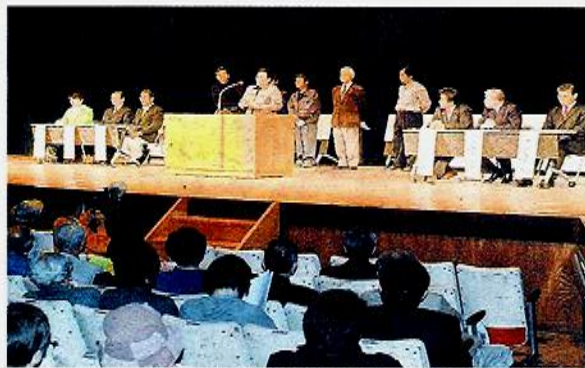
鮎は自然の最高の贈り物で、流域住民の宝です。荒瀬ダム撤去を強く訴えます。

<光永氏の訴えは後日>

# 自然再生のモデルに

## 川辺川ダム中止・荒瀬ダム撤去訴え

### 八代市 新政権後初、900人県民集会



「川辺川ダム中止・荒瀬ダム撤去を実現する県民大集会」で思いを語る住民代表ら＝八代市

川辺川ダム建設中止と県営荒瀬ダム撤去を求める「県民大集会」が14日、八代市の市厚生会館で、約900人が参加してあった。鳩るモデルケースにしよう

山新政権が発足後、初めの大規模な市民集会。「球磨川から2つのダムをなくすこと」で、自然再生を実現する政策提言型の集会として開いた。

環境問題などに取り組む県内の37団体でつくる実行委員会が、地域住民の声を新政権に伝える政策提言型の集会として開いた。

松野信夫参院議員、市民の中島隆利衆院議員らが、「ダムによる治水を進めてきた河川行政の考え方を転換するワンステップにするため力を尽くす」「ダムの被害を受けた住民らを、ダムによらない治水を検討する場に参加させるよう求めたい」などと述べた。

また、福島和敏・八代市長は、荒瀬ダム撤去を求める要望書を、出席した民主、社民、共産の各議員に提出。17日に国へ同様の要望をすることを示した。(野田一登 長野希美)

市民団体のメンバーや国会議員、地元首長、議員らが参加。実行委員長の木村征男・元坂本村長が「清流・球磨川を取り戻すこと、八代海の再生という2つの目的を一本の流れにしたい」とあいさつ。流域住民、川や海の漁協代表6人が、「ダムができて以来、水害におびえる生活になった」「赤潮が頻発する

ようになった」「荒瀬ダム撤去を蒲島知事はひと言で覆してしまっただ」などと、それぞれ思いを訴えた。これを受け、民主の

木村征男(元坂本村長)実行委員長挨拶

訴え＝河川は公共物・鮎は自然の贈り物＝

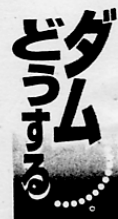
球磨川漁協副組合長 木本生光

訴え＝尊い命さえ奪ってきた荒瀬ダム＝

住職・保育園長 光永了円

書き損じはがきを集めてます → 知事に叫び声を届けます

「荒瀬」撤去求め  
議員連盟 八代市



八代市議会議員の有志14人が24日、「荒瀬ダム撤去を求める八代市議会議員連盟」(田中茂会長)を設立し、市民、公明などを除く5党派から14人が参加した。八代市坂本町の県営荒瀬ダムについて撤去を求める議員連盟の発足は初めてという。球磨川流域の市町村議や県議、国会議員らにも賛同を呼びかけ、国や県への要望を強める。

来年3月末の球磨川の水利権更新期限への対応策を模索しつつ、流域と八代海の環境改善や地域振興策を考える。渾水期の「水がめ」にダムの存続を求める市内の土地改良区への対応も課題とする。

荒瀬ダムの撤去費については前原誠司国土交通相が(都道府県の工作物)「自らの負担で撤去してもらうことになっている」と国会で答弁している。メンバーは「政権交代で撤去の動きが進むと期待していたが、今はトーンダウンしている。地元の議員として積極的ににかかわりたい」と話している。